

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2014 年 5 月 19 日 (月) 1 限 実施
前期①考查
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ～ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1～問11)に答えよ。(配点 30)

紀元前8世紀の作品とされる(a)ホメロスの二大叙事詩、およびこれらとほぼ同時代のヘシオドスの作品を嚆矢(こうし)とする、現存の古代ギリシア文学に物語られ、美術に表されて伝えられた神話。古代ローマの神話も、ゼウスをA, ヘラをユノ, アテネをBというように、神名をラテン語にかえた程度にすぎず、大部分はギリシア神話の翻案か、再説されたものである。通常はギリシア・ローマ神話として一括され、ギリシア神話の一部として取り扱われている。

(b)ギリシア神話は、世界の神話のなかでも内容の豊富さにおいて際だっており、文学的価値においても傑出している。とくに欧米人の発想の源泉として、聖書とともに文学、芸術などに多くの主題を提供してきたため、欧米文化を理解するためには、ギリシア神話の知識を欠くことができない。

有名な「[1]の審判」の話では、ヘラとアテネとアフロディテのうちでもっとも美しい女神を選ぶことをゼウスから求められたトロヤの王子[1]は、ヘラからアジアの支配を、アテネから戦闘に勝つことができる武勇を、アフロディテから世界一の美女を妻に与えることを贈り物として約束された。そこで[1]は、世界一の美女ヘレネと結婚したため、アフロディテをもっとも美しいと判定する。この選択の結果、彼はトロヤ戦争とトロヤの破滅を自らの手で招くことになった。つまり[1]は、自分とトロヤのためにアフロディテの庇護(ひご)を確保したものの、アフロディテより上位の二女神を怒らせ敵にしまったわけである。

この話の構成には、フランスの比較神話学者G・デュメジルが指摘しているように、インド・ヨーロッパ諸族神話に共通してみられる独特の世界観が反映されている。つまり、デュメジルによって三機能体系とよばれているこのインド・ヨーロッパ諸族の世界観によれば、アフロディテのつかさどる美や愛欲の機能は、王権と宗教に関係する機能(=ヘラ)、および戦闘の機能(=アテネ)とともに、世界の秩序維持のために肝要な機能とされたが、他の二機能より下位のものとみなされた。同様に『イリアス』のなかでも、アフロディテがトロヤ側に、ヘラとアテネが[2]側に異常なほど熱心に味方して抗争するようすが歌われている。このように上位二機能と、デュメジルのいう(c)第三機能との間の角逐を主題とする話は、インド、イラン、ゲルマン、ケルト、古代ローマなど、おもなインド・ヨーロッパ諸族神話のほとんどに共通してみいだされるもので、もともとインド・ヨーロッパ諸族神話の重要な特徴の一つを構成していたと思われる。

問1 文章中の空欄[1]～[2]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①～④のうちから一つずつ選べ。

- [1] ⎧ ① ヘクトル ② パトロクロス
 ⎨ ③ パリス ④ アキレウス

- [2] ⎧ ① バビロニア ② ペルシア
 ⎨ ③ エジプト ④ ギリシア

問2 下線部(a)に関連して、次の引用文①～⑥の中からホメロスとヘシオドスの作品を選び、それぞれ、『イリアス』は[3]、『オデュッセイア』は[4]、『神統記』は[5]、仕事と日々は[6]に適切な番号を答えよ。

- ① あるとき、ライオスに一つの神託が下されたことがありました。そのお告げによりますと、私とあの方との間に子どもが生まれたならば、ライオスはその子の手にかかって、殺される定めにあるということでございました。ところがライオスは他国の盗賊どもの手にかかって命を落とされました。一方子どもはといえば生まれてまだ3日も立たぬ時、ライオスが留め金で両くるぶしを刺し貫いた上で山奥に捨てさせたのでございます。
- ② 怒りをうたえ、女神（ムーサ）よ！ ペレウスの子アキレウスのいまわしい怒りを。あの怒りこそアカイア人に数知れぬわざわいをもたらし、多くの勇士たちの頑強な魂を餌食となし、かくてゼウスの意図が実現されていったのだ。そのはじめ、人びとの王者なるアトレウスの子（アガ멤ノン）と神々しいアキレウスとが口論し仲違いした、あのときのことから（うたいはじめよ）。
- ③ まず原初にカオスが生じた さてつぎに 胸幅広い大地（ガイア） 雪を戴くオリュンポスの頂に 宮居する八百万（やおよろず）の神々の常久（とこしえ）に揺るぎない御座（みくら）なる大地 と 路広（みちびろ）の大地の奥底にある曖々（あいあい）たるタルタロス さらに不死の神々のうちでも並びなく美しいエロスが生じたもうた。
- ④ 人間は労働によって家畜もふえ、裕福にもなる、また働くことでいっそう神々に愛される。労働は決して恥ではない、働かぬことこそ恥なのだ。おまえが働くようになれば、たちまち怠け者は、おまえが金持ちになるのを見てうらやむであろう。
- ⑤ 眼光輝く女神アテネは、このアルキノオスの屋敷を目指し、心宏きオデュッセウスのために、その帰国の策を思い巡らしつつ歩みを進めた。やがて女神は、善美をつくした寝室へ入って行っただが、ここにはその姿形が女神にも似た乙女、心宏きアルキノオスの娘ナウシカアが眠っていた。
- ⑥ ソクラテスは、みんなは食わんがために生きているが、私は生きんがために食うという点で違っているのだとよく言っていた。

問3 下線部(b) に関して、「神話」をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① ノモス ② ムーサ ③ ヘラス ④ ミュトス

問4 下線部(c) に関して、第三機能に該当する最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① 宗教 ② 戦闘 ③ 美と愛欲 ④ 王権

問5 文中の空欄 A B に入る、最も適当な語の組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選べ。[9]

- ① A：ユピテル B ウェヌス
- ② A：メルクリウス B ミネルヴァ
- ③ A：メルクリウス B ウェヌス
- ④ A：ユピテル B ミネルヴァ

問6 次の文中の空欄〔10〕に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ハーモニー ② ログス ③ コスモス ④ カオス

欧米語で宇宙に相当する基本概念は、〔 10 〕であるが、この語はギリシア語に由来する。元来は「秩序」、もしくは「秩序正しい状態」を意味し、「混沌」に対立する。古代ギリシアにおいて、神話的な世界創成では、すべてに先立って混沌が設定されており、その生成は不問のままである。

諸学のうちで最も王者的であり、いずれの隷属的な学よりもいつそう著しく王者的であるのは、おのおのの物事が何のために（何を目的として）なさるべきかを知っているところの学である。そしてこの目的は、そのおのおのにおいてはそれぞれの善であり、全般的には自然全体における最高善である。さて、上述のすべてからして我々の求めているものの名前は、まさにこの同じ学に与えられる。すなわちそれは、第一の原理や原因を研究する、(d)観想(理論)的な学であらねばならない、というのは、善といい目的というのも原因の一種だからである。

ところで、この知恵は制作的ではない。このことは、かつて最初に〔 11 〕を愛求した人々のことからみても明らかである。けだし、驚異することによって人間は、今日でもそうであるがあの最初の場合にもあのように〔 11 〕を愛求し（哲学し）始めたのである。ただしそのはじめには、ごく身近の不思議な事柄に驚異の念を抱き、それからしだいに少しずつ進んで遙かに大きな事象についても疑念を抱くようになったのである。たとえば、月の受ける諸相だの太陽や星の諸態だのについて、あるいはまた全宇宙の生成について。ところで、このように疑念を抱き脅威を感じるものは自分を無知なものだ考える。それゆえに、神話の愛好家もまた或る意味では〔 11 〕の愛求者（哲学者）である。というのは神話が驚異さるべき不思議なことどもからなっているからである。

アリストテレス、出隆 訳『形而上学』（岩波文庫、1959）

問7 上の文中の空欄〔11〕に入る語の原語となるギリシア語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ΣΟΦΙΑ ② ΨΥΧΗ ③ ΤΕΧΝΗ ④ ΛΟΓΟΣ

問8 上の文中の下線部(d)をあらわすギリシア語と、その元々の意味の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔12〕

- ① プラクセイーンー達成する ② プラクセイーンー見る
③ テオリアー見る ④ テオリアー達成する

問9 古代ギリシアの叙事詩に見られる英雄（ヘロス）の特徴として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。〔13〕

- ① 由緒ある家柄の人間 ② 半神半人の超人的存在
③ 人間に姿を変えた神 ④ 不死身の運命を持って生まれた人間

問 10 下の文中の空欄 [14] に入る年代として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 紀元前 500 ② 紀元前 1000 ③ 紀元前 1500 ④ 紀元前 2000

問 11 下の文の筆者として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [15]

- ① ハイデッガー ② ヤスパース ③ サルトル ④ ニーチェ

この世界史の軸は、はっきりいって [14] 年頃に発生した精神的過程にあると思われる。そこに最も深い歴史の切れ目がある。われわれが今日に至るまで、そのような人間として生きてきたところのその人間が発生したのである。この時代が要するに《枢軸時代》と呼ばれるべきものである。

この時代には、驚くべき事件が集中的に起こった。シナでは孔子と老子が生まれ、シナ哲学のあらゆる方向が発生し、墨子や莊子や列子や、そのほか無数の人々が思索した、——インドではウパニシャッドが発生し、仏陀が生まれ、懷疑論、唯物論、詭弁術や虚無主義に至るまでのあらゆる哲学的可能性が、シナと同様展開されたのである、イランではゾロアスターが善と悪との闘争という挑戦的な世界像を説いた、——パレスチナでは、エリアからイザイアおよびエレミアをへて、第二イザイアに至る予言者たちが出現した、——ギリシャではホメロスや哲学者たち——パルメニデス、ヘラクレイトス、プラトン——更に悲劇詩人たちや、トゥキュディデスおよびアルキメデスが現われた。以上の名前によって輪郭が漠然とながら示されるいっさいが、シナ、インドおよび西洋において、どれもが相互に知り合うことなく、ほぼ同時的にこの数世紀間のうちに発生したのである。

第2問 次の文章を読み、下の問い（問1～問10）に答えよ。（配点 30）

その時代まで多くの自然現象は、神話や伝承にもとづいて、神々の意志や作用などによって引き起こされると説明されていた（神話的世界観）。これに対し、(a) タレスなどの探究は、自然全体について経験される事実を尊重しながら、できるだけ [16] になかった説明をあたえようとするものであった。このような説明は、観察と論理に照らしあわせて、批判したり改良したりすることができた。実際にこのころから多くの人々が、自分の考えを一方的に主張するだけでなく、たがいの考えを検討し批判しながら、よりよい説明や理論を求めるようになっていった。

たとえばヘラクレイトスは、「[17]」となえ、世界はたえず変化するものであるが、統一した秩序を保っていると考え、後にヘーゲルによって(b) 弁証法の祖であると言われた。(c) ピュタゴラスは、世界全体が数にもとづいて調和していると理解した。さらに(d) パルメニデスは、論理的な考え方を徹底して運動変化を否定するにいたった。一方、(e) デモクリトスは、それ以上分割されない原子と [18] から世界が構成されていると考え（原子論）、世界のあらゆる現象は原子の配列と運動によって説明できるという見方にまで到達した。このような新しいものの見方は、自然の全体について理になかった説明を求めるものであったため、「自然哲学」とよばれる。

問1 文章中の空欄 [16] ～ [18] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [16] ⎧ ① ロゴス ② ピュシス
 ⎨ ③ ミュトス ④ ノモス

- [17] ⎧ ① グノーティ・サウトン ② ゾーオン・ポリティコン
 ⎨ ③ パンタ・レイ ④ フェスティナ・レンテ

- [18] ⎧ ① アイテル ② アトマ
 ⎨ ③ ケノン ④ プネウマ

問2 下線部(a)に関して、タレスについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[19]

- ① エフェソス出身。孤高の哲学者で、その言葉の晦渋さから「暗い人」と呼ばれた。
- ② ギリシア七賢人の一人。天体の観測に基づき前 585 年の日蝕を予言したと伝えられる。
- ③ シチリア島に生まれた。宗教的預言者としても知られ、自分は神で不死であるといい、エトナ火山に身を投げて死んだともいわれる。
- ④ サモス島に生まれる。宗教教団を組織し、魂の不死と輪廻を唱えた。豆畑の前で殺されたとの説もある。

問3 下線部(b) に関して、弁証法についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① すべてのものが矛盾・対立を契機として変化・発展していく理性的な運動の論理学
- ② 大前提、小前提および結論という三段階のステップで推論が展開する論理学
- ③ つぼみが花となり果実になるように、質料が形相に向かって変化するという世界観
- ④ 正・反・合の三段階の自己否定の後、止揚によって四段階に発展するという世界観

問4 下線部(c) に関して、ピュタゴラス派の思想についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[21]

- ① 魂は元来、不死すなわち神的な存在であるが、無知ゆえにみずからを汚し、その罪をつぐなうために肉体という墓に埋葬されている。
- ② 和音が一絃琴の場合、絃の長さが簡単な数比例をなすこと、またものの形は点をいくつか組み合わせるとできあがる。
- ③ 恒星球、五つの惑星球（土星、木星、火星、水星、金星）、太陽、月、地球と、対地球という 10 個の天体は宇宙の中心にあって宇宙の活動を管理し、地球に生命を与え、一種の創造力をもつ存在の「中心火」の周りを、和音を生じながら回っている。
- ④ 万人にとって同一のものである宇宙秩序は、いかなる神や人間が作ったものではなく、それは常にあったし、今もあり、これからもあり続けるだろう。それは常久に生きる火である。

問5 下線部(d) に関して、パルメニデスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[22]

- ① 「有るもの」があり「有らぬもの」はないという前提から、不生不滅、不可分、不変不動であって、完結した丸い球に似ている、といった「有るもの」の属性を引き出し、「有るもの」をわれわれに示す理性のみが真理をとらえ、「多」や生成や消滅や変化を信じさせる感覚は誤謬の源であると説く。
- ② 宇宙には相反するものの争覇があって、あらゆるものはこうした争覇から生じる。したがって、「戦いは万物の父、万物の王」である。こうした争覇のうちに秘められた調和、「反発的調和」をみいだすことができる。これが世界を支配するロゴス（理法）である。
- ③ 万物のもとのものは神的な空気、この空気が希薄になると暖かい火が生じ、濃厚になると冷たい水や土や石などが生じるが、この希薄化と濃厚化を通じて生じたあらゆるものは、ふたたび空気へ返る。
- ④ ロゴスの象徴として火が想定される。火は転化して水となり、水は土となる（下り道）。土は水となり、そして水は火に還る（上り道）が、「上り道も下り道も一つであって同じものである」。

問6 下線部(e)に関して、デモクリトスの原子論に関連する思想として最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① 経験論 ② 唯物論 ③ 観念論 ④ 合理論

問7 自然哲学者アナクシマン드로スについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[24]

- ① 感覚の世界は「在るもの」(光)と「在らぬもの」(闇(やみ))という二つの「形体」(デマス)を併置し、両者からあらゆるものを合成するところに生じる。
- ② 万物のもとのものは無限定なものであり、そのなかから地水火風が生じ、さらに星辰や生物が生じるが、これらはやがて争いの罪をあがなって死滅し、無限定なものへ戻る。
- ③ 空気はまた生命の原理でもあり、したがって人間の魂も空気であって、空気であるわれわれの魂がわれわれを統率しているように、氣息が世界全体を取り巻いている。
- ④ すべての知は相対的なものであるため、絶対的な知は存在せず、弁論によって真偽をあきらかにする以外に方法はないと考えた。

問8 エレアのゼノンによるアキレウスと亀のパラドックスと異なる論法の記述を、次の①～④のうちから一つ選べ。[25]

- ① 飛んでいる矢は、今という瞬間には一定地点にあり、次の瞬間にも次の一定地点にある。飛矢は各瞬間には静止している。
- ② 多くのものが存在すれば、おのおのが一つのものであって大きさをもたないゆえに無限に小さく、他方おのおのは無でない限り大きさをもつはずで、大きさは無限に分割できるゆえに無限に大きい。
- ③ 目的地に行くには出発点との中間点を通らざるをえず、その中間点から目的地までのまた中間点を通らざるをえず、同様にして出てくる無限個の中間点を通過できないゆえに目的地に到達できない。
- ④ 「すべてのクレタ人は嘘つきである」とクレタ人が言った。その言葉が正しければそのクレタ人はうそをいったことになり、その言葉がうそであればそのクレタ人はうそを言っていないことになる。

問9 次の文中の空欄 [26] [27] に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- | | | | |
|------|---|--------|---------|
| [26] | [| ① ミレトス | ② シチリア |
| | | ③ エレア | ④ コリントス |
| [27] | [| ① アレテー | ② テオリア |
| | | ③ アルケー | ④ ログス |

ギリシアの自然哲学はイオニアの都市 [26] に始まった。ここは「当時生を享けたあらゆる賢者」の集まったリュディアの都サルディスに近く、そこを介して早くからオリエントの進んだ文化を吸収したのみならず、植民市の中でもその産業(毛織物)によってもっとも栄え、エジプトをはじめ広く地中海周辺に活発な通商活動を行っていた。そしてさらに隣国リュディアの弱体化に伴い、まさにオリエントに対する自己の社会的文化的アイデンティティの確立が促されているときであった。こうした状況を背景としながら、まずタレスは、[27] を〈水〉であるとし、宇宙の森羅万象をこの水という物質的基体の生成変化として説明する。それまでの伝統的な〈神々の生成の物語〉はここに現実的な〈宇宙生成論〉へと転換された。

問 10 次の文 [28] [29] [30] の説を唱えた人物として、最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つずつ選べ。

[28] 地水火風の四元素と、愛と憎という二つの力とを中心にして展開する宇宙論である。愛は四元素を結合する力、憎は分離する力であるが、この二つの力の勢力の消長交代によって宇宙は四つの時期に区分されながら永遠に回帰する。

[29] 空気たるわれわれの魂がわれわれを支配維持するがごとく、宇宙全体を包括するのは氣息、すなわち空気なり

[30] パンはちぎるな、豆を食べるな、食卓から落ちたものは拾うな。

- | | | |
|-------------|-----------|----------|
| ① デモクリトス | ② エンペドクレス | ③ ピュタゴラス |
| ④ アナクシマンドロス | ⑤ アナクシメネス | ⑥ パルメニデス |

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問3）に答えよ。（配点 12）

前5世紀中ごろから、ギリシア世界に、若者たちに知識を授けて謝礼を受けとる職業的教師が現れ、これがソフィストと呼ばれるようになった。彼らの活動は国際的で、アテナイを中心に多くの都市国家をわたり歩き、主として富裕な市民家庭の子弟を相手に、金銭を報酬として教育活動を行って人気を得た。彼らの約束する教育とは、まず人間としても国家社会の一員としてもすぐれた人物となるための〔 31 〕を授けることであった。この人間教育という点をとくに強調したのは (a) プロタゴラス である。またアテナイのような民主政国家では、社会的成功を得るためにさまざまな審議の場で人々を説得できる能力が必要とされたので、ソフィストの教育内容も、この説得をつくり出す技術としての弁論術が中心になっていた。この能力を重視した代表者は (b) ゴルギアス である。弁論術には文法や(プロディコスが売りものにした)語義解釈などの言語に関する知識が付属し、実際に説得の効果をあげるためには論理的な能力と広い知識とが必要であった。著名なソフィストはいずれも演説・問答の腕前だけでなく、他にまさる博識を看板にしていたが、中にはヒippiアスのように、その教科内容が天文、幾何、算術、文法、音楽、歴史などのほか記憶術のようなものにまで及ぶ者もあった。

しかし当時の保守的な考えの人は、彼らの達者な弁論や、自然学などの新しい知識が若者の人気を集めることにより、古きよき伝統が破壊されることを恐れて、彼らを危険視した。また弁論術は説得を目的とするために、主張される事柄の当否よりも説得の手段の方を重視する傾向があり、ソフィストは〈弱論を強弁する〉という非難を受けた。哲学者たちも、ソフィストの知恵・知識にはごまかしが含まれていることを指摘し批判した。とくに〔 32 〕は、その著作(対話編)の多くに著名のソフィストを登場させ、ソクラテスとの対比のもとに、彼らの正体を批判的な目で生き生きと描いていて、ソフィストを知るための有力な資料ともなっている。このようにしてソフィストの名は〔 33 〕といった悪い意味をもつにいたった。しかし本来の〈知恵のある教師〉というよい意味も残り、ローマ帝政期には弁論術教師や散文作家がソフィストと呼ばれて活躍した。

問1 文章中の空欄〔 31 〕～〔 33 〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [31] ⎧ ① ロゴス ② アルケー
 ⎨ ③ アレテー ④ テオリア

- [32] ⎧ ① プラトン ② ソクラテス
 ⎨ ③ アリストテレス ④ エピクロス

- [33] ⎧ ① 達人 ② 詐欺師
 ⎨ ③ 愛知者 ④ 詭弁家

問2 下線部(a)に関して、次のプロタゴラスについての記述を読み、空欄 [34] [35] に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

プロタゴラスは、古代ギリシアの代表的なソフィスト。トラキア海沿岸の町アブデラに生まれる。30 歳ごろからソフィストとしての活動を開始し、40 年余りギリシア全土を遍歴、とくにアテネへは頻繁に訪れて、紀元前 444 年アテネが南イタリアに建設した植民市トゥリオイの憲法起草を委嘱されたと伝えられる。「人間は万物の尺度である。在るものについては在ることの、在らぬものについては在らぬことの」ということばで記録された有名な人間尺度説は、普通、[34] の基準を個々の人間の感覚に見立てようとする説と解釈されている。そのため、この説は絶対的な [34] の存在を否定し、[35] 主義を標榜するものとされている。

そこで、同等な権利を主張する各人各様の判断のうち、いずれを採択したらよいかという問題になるが、ここで、ソフィストたちの教える弱い議論を強くする術である弁論術が、自説を押し出すために必要となってくる。令名はとどろき、彫刻家フェイディアスをしのぐ大金をもうけたと伝えられるが、著作はいずれも失われ、現在残っているのは断片ばかりである。

[34] ⎧ ① 理 性 ② 感 性
 ⎨ ③ 距 離 ④ 真 理

[35] ⎧ ① 懐 疑 ② 相 対
 ⎨ ③ 自 然 ④ 絶 対

問3 下線部(b) に関して、ゴルギアスの言葉として**適当でないもの**を下の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① 神々については、彼らが存在するということも、存在しないということも、またその姿がどのようなものであるかということも知ることはできない。
- ② 何者もあらぬ。あるにしても何ものも知り得ない。たとえ知り得るにしても、それを何人も他の人にあきらかにすることはできないであろう。
- ③ ヘレネを説得して、彼女の魂をあざむいたものが言論であるならば、またこのことに対しても、弁明によって彼女の罪を解消するのは困難ではない。
- ④ 言論は偉大な有力者であって、それは非常に小さな、全く目につかない身体を以て非常に神秘的な仕事を完成する。

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 12）

ソクラテスはアテネの (a) 中産市民層の出身で、青年時代を民主制の全盛期におくった。その生涯については不明な点が多いが、知的探究心に富み、強靱な体力と意志の持ち主だったと伝えられている。

『ソクラテスの弁明』によれば、ソクラテスの哲学的活動のきっかけとなったのは、彼の友人のひとりが [37] のアポロン神殿で、「ソクラテス以上に知恵のあるものはいない」という神託（神のお告げ）を得たことである。自分は知恵のある者ではないと自覚していたソクラテスは、この真意を探るため、自分より知恵のある者を見つけ出して、神託に反論しようとした。

だが、賢者として評判の高い人々を訪問し、問答をしたあとに、ソクラテスは次のような結論に達した。私たちは、どちらも、[38] については何ひとつ知らない。ところが、相手は知らないのに何かを知っていると思っている。自分は、知らないと思っている。この点において、つまり自分の無知を自覚しているという点で、自分は他の人よりもすぐれている。このことを無知の知という。

アポロン神殿には「[39]」という格言が刻まれていた。ソクラテスは自分にあたえられた神託をこの格言と関連させ、人間としてのあるべき生き方は、Aにあるとしたのである。

この確信にもとづいて、ソクラテスは街頭に出た。そして、広場（アゴラ）での多くの人々との問答を通して、彼らを (b) 独断や思いこみから解放し、無知の知を悟らせるようにつとめた。彼は、人々が無知の知を出発点として、みずから普遍的な真理を求め、その探究心がギリシア古来の愛知の精神にまで深められることを願ったのである。

問1 文章中の空欄 [37] ～ [39] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|-----------|---------------|
| [37] | [| ① スパルタ | ② アテナイ |
| | | ③ エレア | ④ デルフォイ |
| [38] | [| ① カロカガティア | ② メソテース |
| | | ③ エイドス | ④ プロネーシス |
| [39] | [| ① 徳は知である | ② 万物は流転する |
| | | ③ 汝自身を知れ | ④ 教えることによって学べ |

問2 下線部(a)に関して，ソクラテスの両親の仕事として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。[40]

- ① 父は政治家，母は家政婦
- ② 父は政治家，母は助産師
- ③ 父は石工，母は家政婦
- ④ 父は石工，母は助産師

問3 下線部(b)に関して，それを意味するギリシア語として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。[41]

- ① エピステーメー ② フィリア ③ パラドクス ④ ドクサ

問4 空欄

A

 に入る記述として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。
[42]

- ① 自己の無知を自覚し，無知であるからこそ知を愛し求めること
- ② 自己の無知を自覚し，真実の知の追求をあきらめること
- ③ 自己の無知を乗り越え，他者よりも知者となることを目指すこと
- ④ 自己の無知を乗り越え，身体的な鍛錬を怠らないこと

第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 16）

真の知を得るために、ソクラテスは、ソフィストのように一方的に相手を説得しようとはしなかった。まず、相手が当然のごとくに知っていると思っていることを語らせてから、一問一答をくり返すなかで、相手の説明にふくまれている矛盾を指摘し、相手がみずから訂正するのを待った。このように、自分が無知であるかのようにふるまい、反対に相手の無知をさらけ出させることを〔 43 〕という。

〔 43 〕を出発点とし、ソクラテスは、問答をくり返すことにより、相手に無知を自覚させ、思索を深めさせて真の知にいたらしめた。この方法を、〔 44 〕と名づけた。

そもそも、人間の徳とは何だろうか。ソクラテスは、善にして美なることを理想としたギリシアの伝統をふまえ、徳とは〔 45 〕をできるだけよいものにすることであると考えた。ソクラテスにとって、人間の〔 45 〕の本質は理性であるから、〔 45 〕をよいものにすることは、理性がその固有の機能をよくはたすように心がけることである。また、理性の機能とは真理（知恵）を知るはたらきであるから、〔 45 〕をよくするとは、真理を愛し求めることにほかならない。

ソクラテスは、徳を知的な営みのなかで実現できるものと考えた。たとえば、勇気という徳をもつには、勇気について知らなくてはならない。(a) 徳とは何かを知ることなく、徳をもつことはできないのである。そして、真の知とは必ず実践へと向かうものであり、現実の行為と一体のものである。勇気について知っているとは、勇気ある行為ができるということである。こうした徳をもつことがよく生きることであり、幸福なのである。

ソクラテスは、(b) 愛知の精神にもとづいて普遍的な真理を探究し、その真理のうえに人間としてのあるべき姿を実現させ、ポリスの基盤を再建しようとした。

ソクラテスの言動は、当時の人々の価値観や生き方に対するきびしい批判をふくんでいたため、多くの敵をつくることになった。こうした状況のもとで、アテネの支配層のある者が、自分の政敵とかかわりのあるソクラテスを「国家の認める神々を認めず、新しい神を信じ、A」として告発した。

裁判において、ソクラテスは自己の信念をつらぬき、その結果、死刑となった。刑の執行までに、国外に亡命する機会もあり、それをすすめる友人たちもいたが、(c) ソクラテスは聞き入れなかった。

問1 文章中の空欄〔 43 〕～〔 45 〕に入れる最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [43]

①	エイロネイア	②	レトリケ
③	ピュシス	④	ノモス

- [44]

①	モノロゴス	②	アントローポス
③	ディアレクティケ	④	ポリテイア

- [45]

①	ソーマ	②	プシュケー
③	ハルモニア	④	コスモス

問2 下線部(a)をあらわす語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
[46]

- ① 福德一致 ② 知徳合一 ③ 知行合一 ④ 習性的徳

問3 下線部(b)に関して、普遍的真理としての真の知についてのソクラテスの考えとして、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[47]

- ① 真の知者は神のみであり、われわれ人間にとって真の知を探究することは不可能な企てである。
② 真の知者は神のみであり、われわれ人間は善美の事柄を何一つ確実に知らない存在である。
③ 我々人間も真の知者になるために、つねに知を愛し求めて談論を続け、問答法によって真の知を獲得すべきである。
④ 我々人間も真の知者になるために、哲学を通して真の知を獲得し、無知である人々に伝達する役割がある。

問4 文中の空欄 A に関して、中に入る言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]

- ① 高齢者に対して不正を働いた者 ② 高齢者を侮辱した者
③ 青年たちを腐敗・墮落させた者 ④ 青年たちに不正の方法を教えた者

問5 下線部(c)に関する、ソクラテスの言葉として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[49]

- ① 助かることができるのに、自分を見捨てることは正しくない
② 健康であることこそが、人間にとっての善きことなのだ
③ 不正というものは、愚かな民衆によってのみもたらされるものだ
④ 不正というものは、善いものでもなければ美しいものでもない

問6 ソクラテスの妻といえば悪妻として有名ですがその名前として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① アルキビアデス ② カイレポン ③ サッフォー ④ クサンチッペ

これで問題は終わりです。